



社会貢献活動や環境保全に 資する製品の開発を通じ、 持続可能な社会の実現を目指す

代表取締役社長 兼 COO

吉田 政雄

古河電工グループは、世紀を超えて培ってきた素材力を核として、絶え間ない技術革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献することを基本理念として、世界に存在感のある高収益な企業グループとなることをビジョンに掲げて事業活動を行っております。

環境問題、貧困問題など世界的な課題が山積していますが、持続可能で安定した社会の発展があってこそその企業活動でありますので、当社の持つ技術を更に発展させ、環境保全に資する製品や、人々の生活をより豊かにする製品の開発を通じて、社会に貢献してまいりたいと考えております。

古河電工グループに対して示しました2008年度の社長方針は、1.経営基盤の強化、2.お客様から選ばれる「製品力」の向上、3.事業ポートフォリオの再構築、4.環境への取り組み強化と社会貢献活動、5.グループ理念の浸透と風土改革です。経営基盤の強化を第一番目に掲げておりますのは、根底に安全、品質の重視、内部統制活動の強化、コンプライアンス重視などを含んでおり、経営の基本を大切にしたいという思いがあるからであります。

特に本年は、環境への取り組み強化と社会貢献活動を大きな柱として掲げました。環境への取り組みにつきましては、地球温暖化効果ガス削減と3Rによるゼロエミッションの推進、および環境調和型製品の開発とグリーン調達の推進を行います。2008年は京都会議で削減を約束した第1約束期間の開始年に当たっており、当社としても世界的な課題である地球温暖化ガス削減に、新たな決意で取り組みます。むろん従来から様々な対策を進めておりましたが、本年はそれらを一層加速す

るとともに、新たな発想も加えて効果的な活動を強力に推進します。エネルギー効率に優れる環境調和型製品の開発によって貢献することや、チームマイナス6%へ参加するなど、製造拠点だけでなく非製造拠点を含めた全社的な活動を展開します。

社会貢献活動につきましては、5月に「古河電工グループ社会貢献活動基本方針」を制定し、「次世代育成」「スポーツ・文化振興」「地域社会との共生」を軸として着実にたゆまぬ活動を行なうことを宣言しました。本業での社会貢献のみならず、古河電工グループの持つ人材や数多くの事業拠点を活用して、持続可能な社会作り貢献する活動を行い、世紀を超えて培ってきた社会との絆をより強いものとしていきたいと考えております。

古河電工グループは、中期経営計画「イノベーション09」を策定し、2009年度に連結売上高1兆2,500億円を達成することを目標に、重点4分野（自動車、電子部品、フォトニクス・ネットワーク、環境）を中心に研究開発投資、設備投資を継続するとともに棚卸資産や売掛債権の圧縮など資産効率の向上に努めてまいります。

企業価値は「経済性」「環境保護」「社会貢献」の三側面のバランスによって評価されるもの（トリプルボトムライン）との考え方に立ち、また、お客様をはじめ従業員や株主の皆様、地域社会の方々などステイクホルダーの方々とのコミュニケーションを通じて、社会の要請や期待に応えられる事業展開を図り、経営目標を達成していきたいと考えております。

今後とも、私どもの取り組みに対し忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



社会の要請や環境変化に、 適確かつ迅速に対応できるよう CSR活動を発展させます

取締役兼執行役員 CSRO兼CSR推進本部長

佐藤 哲哉

一連の製品事故や企業不祥事、地震等の天災の発生、企業活動のグローバル化等を受けて、企業は製品やサービスの安全と品質の確保、コンプライアンスの遵守などその本来事業の確実な実施のみならず、環境保全、地域貢献を始めとする社会への貢献などの社会的責任を、より一層果たすことが求められています。

古河電工グループは、新たに定めたグループ理念やCSR基本方針に基づき、真に豊かで持続可能な社会の実現にグループ全体で貢献することを基本とし、経済性、環境保全、社会貢献の三つのバランスが取れるよう、事業活動を進めていくこととしております。このため、コーポレートガバナンスの要である取締役会の下に、会長、社長、カンパニー長、チーフ・オフィサーから成るCSR・リスクマネジメント委員会（CSR推進本部が事務局）を設け、経営層がグループ全体の観点から、CSR及びリスクマネジメント活動を行う体制を取っております。

また、CSR推進本部がコンプライアンス、リスク管理、安全対策、環境保全、社会貢献などの対策の立案とその実施や支援を行うとともに、グループ全体の活動をモニタリングし、必要があれば適切な措置を講ずることにより、円滑で実効のあるCSR活動の推進に努めております。

主な取り組みとしては、法令や企業倫理などの研修の実施、コンプライアンス遵守の徹底、グループ全体のリスクの把握とBCP作成、品質管理、情報セキュリティ等の重要リスク管理、生産・輸送分野でのエネルギーやCO₂の削減、製品の軽量化などによるLCAへの寄与、グループ全体のエコ製

品の拡大、廃棄物削減など3Rの実施、グループ全体での土壌対策の実施、グリーンサプライヤー制度の推進とCSR調達への取り組み、地域への当社施設の開放や地域貢献イベントへの参加、障害者雇用への積極的取り組み等を行っております。

事例の詳細については、このCSR報告書に記載しておりますが、当グループのCSR活動を広く知っていただくために、昨年開催しました総合技術展や各種展示会、説明会など、ステイクホルダーにお会いする機会を捉えて、活動内容を適宜ご説明しているほか、英語版のCSR報告書を海外の事業所などを通じて配布し、海外のステイクホルダーへのご紹介にも努めております。引き続き、皆様からのご意見やご要望をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

今後とも、CSR活動の基礎となるステイクホルダーの皆様とのコミュニケーションをこれまで以上に充実させ、社会の要請や環境変化に適確にかつ迅速に対応できるよう古河電工グループのCSR活動を発展させてまいりたいと考えております。